



幼稚園での森林教室（近畿中国森林管理局）

6 その他国有林野の管理経営

6 その他国有林野の管理経営

(1) 人材の育成

国有林野事業では、「国民の森林^{もり}」の管理経営にふさわしい人材を育成するため、森林・林業に関する専門的な知識や技術等について、森林技術総合研修所や各森林管理局が連携を図りながら、研修を行っています。

平成21年度には、低コストで高効率な伐採・搬出や資源を有効活用するための採材など適切な収穫業務や、木材の生産・流通・加工に関する実践的な知識及び技術を習得させるための研修などを実施するとともに、引き続き民間派遣研修、O J T^{注)}、民有林行政等との人事交流にも取り組みました。

事例 職員を対象とした研修の実施

国有林野事業においては、「国民の森林」を適切に管理経営するために、収穫業務や木材の生産・流通・加工に関する実践的な知識や技術が必要不可欠です。

森林技術総合研修所では、伐採・搬出等の指導・監督に携わる職員等を対象に、本所での講義と林業機械化センターにおける現地実習等を組み合わせた実践的な研修を実施しました。

(森林技術総合研修所)



場 所：群馬県安中市 あんなか 増田山外国有林（左上）（群馬森林管理署管内）、
同県沼田市 ねり 根利国有林（右下）（利根沼田森林管理署管内）

説 明：写真は、現地実習における林業事業体との意見交換と、スイングヤーダ操作体験の様子です。

(2) 林業技術の開発普及

各森林管理局では、森林技術センターを中心に、地域の特性に応じた林業技術の開発に取り組んでいます。取組成果については国有林野の管理経営に活かすとともに、現地検討会等を通じて地域の林業関係者等への普及にも努めています。

平成21年度は、複層林化や針広混交林化など多様な森林づくりに向けた施業技術の開発をはじめ、植栽や間伐等の低コスト化の取組等、104の技術開発課題に取り組みました。こうした技術開発は、研究機関や大学等とも連携しながら進めています。

表－30 技術開発の事例（平成21年度）

技術開発課題	内 容
カラマツ複層林育成技術の検証 (北海道森林管理局)	複層林を効率的に造成するため、カラマツ人工林の帯状伐採跡地において、照度管理による天然更新技術を開発する。
異なる列状間伐がもたらす個体の成長と将来林型の予測 (関東森林管理局)	施業の目的に応じてどのような列状間伐を採用するか判断基準の基礎データとして、列状間伐が個体ベースの成長に及ぼす影響を予測する手法を開発し、それをもとに森林全体の長期的な変化を予測する技術を開発する。
低コスト路網を活用した効率的な間伐方法の確立 (近畿中国森林管理局)	間伐材生産コストの低減を図るため、地域で一般的に使用されているクラスの機械を用いた低コストな集材路網の整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムを開発する。
保育作業の省力化による森林育成技術の確立 (四国森林管理局)	無除伐区と除伐区の成長比較調査や、異なる下刈回数と、除伐の有無を組み合わせた省力化試験等を実施することにより、下刈、除伐等の保育作業を省力化する技術を開発する。
コスト1/2を目指した誘導伐システムの開発 (九州森林管理局)	複層林への誘導を効率的に行うため、伐採・搬出から更新・保育まで各段階において低コストな施業システムを開発する。

事例 造林作業の低コスト化に向けた技術開発の取組

九州森林管理局森林技術センターでは、高性能林業機械及びコンテナ苗を活用し、高効率で安全かつ労働強度が軽減される造林作業システムの確立のための実証実験に取り組んでいます。

(九州森林管理局 森林技術センター)



- 場 所：宮崎県宮崎市 さるかわ 去川国有林（宮崎森林管理署管内）（左上・右下）、
熊本県菊池市（左下）
- 説 明：写真は スギのコンテナ苗と、改良型コンテナ苗自動耕耘植付機によるコンテナ苗植付の様子です。

（３）地域振興への寄与

国有林野事業は、計画的な木材の供給（81ページ参照）、事業の民間委託を通じた事業体の育成や就労の場の提供（99ページ参照）、国有林野の貸付けや売払い（89ページ、91ページ参照）、森林空間の総合利用（93ページ参照）、分収林制度の活用（37ページ参照）、流域管理システムの推進（21ページ参照）等を通じて、地域産業の振興、地域の活性化、住民の福祉の向上等に貢献しています。

（４）労使協力の推進

「国民の森林」の実現に向けて、公益的機能重視の管理経営を推進していく中で、労働組合との共通の認識の醸成に努め、相互理解と信頼に基づき、改革を推進するよう努めています。

事例 地域材の利用促進の取組

三八・^{さん ぼち かみ きた}上北流域には、民有林と国有林合わせて約9万8千haの人工林があり、この資源を活用した地域産業の振興が課題となっています。

三八上北森林管理署では、地域材の利用促進を図るため、地域の方々を対象として、木が伐採されてから製品として利用されるまでの一連の流れを体験いただく「^{もり}森林と木を知るツアー」を開催しました。

(東北森林管理局 三八上北森林管理署)



場 所：青森県十和田市 ^{ほろないやま} 幌内山国有林、三八上北森林管理署

説 明：写真は、高性能林業機械による造材作業の見学と、庁舎を題材として木造建築の魅力を説明している様子です。

事例 林建協働の取組への支援

岐阜県飛騨地方では、担い手が不足している林業側と林業参入を模索する建設業者とがノウハウや技術・機械を相互に補完する仕組みをつくることにより、持続可能な林業経営の確立と地域の雇用の確保を図る「林建協働」の取組が進められています。

中部森林管理局森林技術センターでは、この取組を支援するため、「ひだ林業・建設業森づくり協議会」が開催する研修会において、新規参入を希望する建設業者などに対して、チェーンソーによる伐木造材や、作業道作設についての技術指導を行い、地域林業の活性化に貢献しました。

(中部森林管理局 森林技術センター)



場 所：岐阜県^{げろ}下呂市

説 明：写真は、建設業者を対象とした伐木造材技術の研修の様子です。

事例 嵐山の景観を守るための取組

嵐山国有林は、かつてはアカマツとヤマザクラが主要樹種であったと言われていますが、現在では、松くい虫被害の拡大によるアカマツの減少、常緑広葉樹への植生の遷移によるヤマザクラの衰退などにより、景観が大きく変化しつつあります。

京都大阪森林管理事務所では、地元関係者と連携して、ヤマザクラの植栽など、嵐山の風光明媚な景観を守るための取組を行ってきました。

平成21年度には、地元関係者や有識者の参画による「嵐山国有林の取扱に関する意見交換会」を設置して、嵐山国有林の今後の取組方針についての検討を行いました。

(近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所)



場 所：京都府京都市 嵐山国有林ほか

説 明：写真は、近隣の寺院の庭園から見た嵐山国有林と、意見交換会の様子です。